

議題:堺市のがん対策推進に係る課題について

先日の委員会では、大変貴重なご意見を多数いただき、心より御礼申し上げます。

堺市がん対策推進委員会の発足より 10 余年が経ちますが、2018 年の「がん検診自己負担無償化」にて一時検診受診率は上昇したものの、その後低下し改善を認めておりません。精密検査受診率も微増程度であり、“がん予防”については、抜本的な見直しが必要です。

また、“がんとの共生”については、これまで当委員会ではあまり検討されてきませんでした。この分野においては、各区の保健センターが主な窓口になり、問題があれば本庁課に上がってくるのが現状とのことですが、やはり本庁課が中心となり、保健センターを主導していただく方がより強い推進につながります。

今回、限られた時間の中で、皆さま方から、各項目にわたってご意見をいただくことができませんでした。次頁以降に、がん対策推進に係る現在の主な取り組みならびに課題について私の意見を記載させていただいています。

大変ご多忙のなか恐縮ではございますが、委員の皆さまからのご意見を頂戴できれば幸甚に存じます。後日、ご意見をまとめ、次回の委員会の場で具体案の作成をさせていただきたく存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

堺市がん対策推進委員会 会長 平松 直樹

<現在の主な取り組み>

I がん予防(がん検診率・精密検査受診率の向上)

①がん検診への動機付け

- ・がん検診費用の経済支援: **がん検診費用無償化 2018**
- ・個別受診勧奨 (はがき、ショートメッセージサービス 2020、電話など)
- ・紙媒体による広告 (ポスター (**動物カルタポスター 2025**))、リーフレット、チラシ、広報紙、ガイドブックなど)
- ・デジタル媒体による発信 (ホームページ、SNS、デジタルサイネージ、**ショート動画 2025** など)
- ・区保健センターにおけるがん啓発 (健康教育、病院・学校との連携など)
- ・イベント開催

(堺市主催)

乳がんタペストリー 2010、ピンクリボンキャンペーン(乳がん月間)旧堺燈台/
フェニーチェ堺(街路灯)をピンクにライトアップ 2022、さかい健康フェスティル
in イオンモール堺鉄砲町 2023 (乳がん検診)、がんに関する啓発展示 2023、
パネル展:乳がん、禁煙週間

(堺市共催)

ろうさい市民がんフォーラム 2016、病院フェア(堺市立総合医療センター)2023
堺市協力、歯ッピー健康フェア(堺市歯科医師会)(口腔がん検診)

(その他)

SDGsフェスタ(乳がん検診)、自由の泉大学(がんに関する講演)など

②がん検診の施行場所、受付日時の明確化

- ・ **堺市けんしん総合サイト「医療機関を探す」機能 2017**

③がん検診申し込みの利便性の向上

- ・ イベント開催時の受付
- ・ 電子申請(受診資格証明書) 2024

④がん精密検査未受診者への勧奨

- ・ **区保健センターにおける個別勧奨 (5がん対象) 2023**

II がんとの共生: がんサバイバーシップの支援

- ・ **アピアランスケア(ウィッグ等購入費用の助成) 2025**
- ・ 区保健センターにおける相談受付

<個人的な見解>

I がん予防について

○ がん検診率の向上

がん検診率の向上のためには、まずがん検診の現状を十分に分析し、対策を講じる必要がある。がん検診の現状の分析には、以前から課題として挙げられているように、まず本市におけるがん検診対象者の人数を把握しなければならない。藤田委員のご発言通り、会社検診など他の機関でがん検診を受検している人がどの程度いるかは、一度しっかりとアンケート調査を行って把握する必要がある。その上での検診受検率とすべきである。

また、がん検診受検者数については、5 がんのいずれかの検診を受検した人数をメインの指標にしているが、本来目標は、個々において 5 がんすべてのがん検診を受検いただくことである。今回追加いただいたがん種別のがん検診者数(検診率)が、少なくとも検討には必須である。さらには、各がん種において、男女別、年齢別(10 才毎)の受診率を出して、その傾向から検討を進めることが望ましい。がん種によって検診率に差がある(6.3%~25.9%)ことも検討すべき点である。

政令指定都市のうち、唯一「自己負担無償化」しているにもかかわらず、検診受診率は平均レベルである。西村委員のご発言の通り、検診率の高い市の取り組みは参考になるので、ぜひ調査されたい。自己負担無償化が始まって8年目であるが、3 年前からほぼ検診率の向上を認めておらず、同施策による改善は期待できない。自己負担無償化は一旦終了し、代わりに、何か市民の受検の動機付けになるような魅力的なアイデアが必要である。例えば、検診受検者全員に堺市名産あるいは堺市オリジナルの記念品を進呈したり、抽選でさらに素敵なプレゼントを贈ることに今の予算をあてることができれば、市民のなかで話題となり、盛り上がるかもしれない。スタンプ制にして、男性3つ/女性5つのすべてのがん検診を受検すれば特典を設けるなども方法である。再来年度に向けて、このようななんらかのアイデアを出して動機付けを行うことが望ましい。

これまで、はがき、ショートメッセージサービスなどによる個別受診勧奨、紙媒体やデジタル媒体による多数の発信、区保健センターにおけるがん啓発、そして多数のイベント開催に取り組んでいただいていた。非常に大事な取り組みである。なかでも、2017 年に設けられた「堺市けんしん総合サイト」の医療機関検索機能、非常に有用なツールであり、がん検診を受けることができる施設の住所・電話番号・マップ・アクセス、がん検診の種類、受付時間・曜日が、簡単に検索できる。さまざまな発信サイトで、“堺市のがん検診はここから ー堺市けんしん総合サイトで簡単に検索できるー”などと銘打ったタイトルをつけて、大々的に広報すべきである。今年度で作成されたショート動画は、「堺市けんしん総合サイト」の医療機関検索機能を非常にわかりやすく解説している。このショート動画を You Tube にあげるなども効果的であろう。

「堺市けんしん総合サイト」の問題点として、本サイトの医療機関検索機能に到達するまでのいくつかのステップが必要であり(※1)、改善が望まれる。また、同検索機能では、土日祝に開業している施設の検索が可能であるが、実際に働く世代の人たちが、欠勤することなく検診を受検できるのは、平日夜と休日である。平日夜の検索を可能にいただき、休日も土曜と日祝を分けて検索できることが望ましい。また、ホームページを利用できない人たちのため

に、同様の情報がわかるガイドブックの作成が望ましい。

がん検診申し込みの利便性の向上については、現在も一部で行われているイベント開催時の受付の推進が望まれる。複数の検診の同時実施も行えるように配慮したい。

○ がん精密検査検診率の向上

がん精密検査の受診については、2023 年より開始された各区保健センターによる未受診者への個別勧奨(5 がん対象)の推進が望まれる。山本委員のご発言の通り、将来的には、医療 DX を用いて、受診から結果報告までを短期間で円滑にできるようにすることが重要である。

II がんとの共生

“がんとの共生”については、これまで当委員会ではほとんど検討されていない。各区の保健センターが主な窓口になり、問題があれば本庁課に上がってくるのが現状とのことであるが、やはり本庁課が中心となり、保健所・保健センターを主導していただく方がより強い推進につながる。がんサーバイバーやそのご家族より、がんに関連する相談を積極的に受けて支援することが大切である。2 人に 1 人ががんに罹患し、共生していく時代である。個別の相談窓口としては保健センターやがん診療連携拠点病院の相談支援センターが中心であるが、本庁課には積極的に「市民が迷わず躊躇せず相談できる導線の整備とその広報」を行っていただきたい。

※1 「堺市けんしん総合サイト」のインターネット検索について

インターネットで“堺市 がん検診”で検索すると、“受けよう けんしん「堺市けんしん総合サイト」”が出てくる。しかし他のサイトと比較して、タイトルに“がん検診”という文字がないためにインパクトは高くない。「堺市けんしん総合サイト」に入って、がん検診のタブをクリックすると、がん検診全体の説明があり、下にスクロールしてはじめて、“どうやって受けるの?”というコーナーがあり、以下の案内が出てくる。

○ 市内指定医療機関(個別検診)

「[医療機関を探す](#)」のページより、医療機関の検索が可能です。

(文責：平松直樹)